



★ ★ ★ ★ ★  
COLUMN

## That's so American!!

ノースカロライナ州から  
さまざまな医療にまつわる出来事を紹介

# 第23回 オバマケアで市場が変わる ～無保険者を取り込む～

ノースカロライナ州メディケア・カウンセラー

アメリカ病院経営士会認定病院経営士 薬剤師（日本） 河野圭子

2014年にオバマケア（医療保険制度改革法）が施行されてから10年がたち、無保険者の位置付けにも変化が見られるようになりました。今回は、現在の無保険者の状況と、無保険者が新たな市場として注目されている現状についてお伝えします。

### 中所得者の無保険という選択

低所得者層は、オバマケア\*による政府の保険料補助や、メディケイド（低所得者向け公的医療保険）により、保険料が無料またはごくわずかな負担で保険に加入することが可能になりました。多くの州で、低所得の健康な独身者もメディケイドを受給できるようになりました。

一方、中所得者以上の無保険者は、オバマケアの保険に加入できますが、保険料補助がほとんど受けられず、保険料が全額自己負担になる場合、無保険を選ぶ人が多くなっています。

例えば、ノースカロライナ州では、補助なしでは20歳で保険料月額約4万円以上、4人家族では月額21万円以上です。この例で4人家族の年間免責額が196万円（14,000ドル）に設定されている保険では、多くの診療でこの金額に達するまで保険は適用されません。そこで健康だと考える人の中には、自費の自己負担金額が、保険料と免責額の合計より低いだろうと予測して、保険に加入せず自費で支払うほうが経済的と判断する人が増えているのです。

ちなみに、オバマケア施行当初の無保険者への罰金制度（確定申告時の課税）は、第1期トランプ政権下で廃止されました。この影響もあり、特に健康な中所得者層の間で、高額な保険料を避けて無保険を選ぶ傾向が強まっているのです。

### 自費患者向けのアフォーダブルな診療価格

筆者の住むリサーチトライアングル地区では、中所得の無保険層をターゲットにした自費診療割引を導入し、収益を伸ばしている中規模医療グループがあります。代表例が、プライマリーケアのアバンス・ケア（Avance Care.com）と、整形外科専門のイマージオーソ（EmergeOrtho.com）です。

イマージオーソは、MRI 検査の自費価格は、適正価格で保険利用時のような事前承認がないので即日検査が可能になり自費患者さんの支持を得ています。医療側にとっても、事務負担の軽減と確実な前払い収入が得られるため、双方にメリットがあります。

両グループは自費料金を公開し、民間保険の割引価格よりやや高めながら、チャージ定価（保険未適用価格）より大幅に低く設定しています。これにより、自費でも利用しやすい仕組みを整え、無保険層の需要をうまく取り込み、利用者を増やしています。

### まとめ

大手医療機関が無保険者に高額な診療定価の請求を続ける一方で、アバンス・ケアやイマージオーソのような中規模医療グループは、中所得の無保険者を新たな患者層とみなして、適正な自費価格で信頼を獲得して市場を拡大して着実に利益を上げています。📍

\*マサチューセッツ州など一部の州では、無保険者に対して州所得税の申告時に罰金が科されます。